

2023 新年 謹賀



渥美広報部長撮影

会員並びに賛助会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家族の皆様と共に輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、千鷲会創設40周年記念行事を始めとする諸活動に、皆様から変わらぬご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



年頭のご挨拶 千鷲会会長 佐藤 敏博

書面開催を余儀なくされてきた定期総会を、昨年は3年ぶりに対面で開催し、新型コロナの影響による千鷲会活動の抑制や会員間の接触機会の減少により、やや希薄となり始めた会員相互の親睦の強化等について、マスク越しながら討議ができました。なお、定期総会後の懇親会は、感染防止を優先して中止にいたしました。今後、開催要領等のさらなる創意工夫により次年度以降の実現に取り組むたいと思っています。また、昨年は創設40周年の節目を迎え、同年10月6日には基地内での記念植樹式として11月26日には千鷲会への協力者に対する感謝状等の贈呈式及び記念祝賀会を執り行い、創設時の趣旨等を再認識するとともに会の隆盛を誓いました。一方、基地行事においても3年ぶりに航空祭が開催され、厳しい安全保障環境の中、任務等の遂行に加え少しずつ恒例行事等も行われて、基地OB会としてのお手伝いの場が増加した年になりました。近年は、中国による東シナ海での度重なる領海侵犯や北朝鮮による異例の頻度での弾道ミサイル等の発射等、我が国周辺での脅威の顕在化が顕著です。



千鷲会 広報部作成

自衛隊は、これらに対処するため一層迅速で複雑に変化しています。千鷲会の目的である「防衛施策の普及啓蒙及び会員相互の親睦を図ること」を達成するために、先ずは我々OB自らがその変化を学び、理解しなければなりません。その努力は、会員相互の結束強化にも資するものと

投稿 千鷲会創設40周年によせて 国井勇治会員



創設40周年と言う大きな節目の年を迎えましたこと、に会員の一人として大変深い感慨を覚えるとともに広報紙「千鷲会だより」の創刊に携わった者として懐かしく思います。「千鷲会だより」は平成24年に朝倉前会長と事務局の白木会員の発案で創設30周年を記念し、会員相互の融

結びになります。年々50周年に向けての初年であり、会員一丸となって自衛隊の変化への追隨をスタートさせようではありませんか。会員、賛助会員並びにご家族皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。

【基地野球部への応援】

昨年、第47回社会人野球日本選手権大会に、千歳基地野球部が北海道代表として出場することになり、千鷲会会員有志66名からの応援金142,000円を、佐藤会長から千歳同夢会に贈呈し、千歳同夢会会長から感謝が伝えられた。
～応援に駆けつけた森田副会長のLINEから～
空自千歳、残念ながら王子に1対4で敗れましたが、強豪相手に良く頑張ってくれました。応援、ありがとうございました。



森田副会長撮影

和団結を強固なものにするよとの趣旨で創刊され、現在では第36号まで発行されています。当時、私は現役時代に千歳基地新聞を担当していた事もあり、編集作業に従事しました。創刊に際し、カラー化及び投稿依頼等、少ない予算の中で朝倉前会長を初め奔走した事が思い浮かびます。その後、私は3年程で退きました。現在の広報誌を見念に当たって記事の内容など、クオリティの高さに驚きを隠さず、創刊に携わらせて頂いた事を誇りに思います。その他の想い出は、いくつかは定かではないのですが、基地内で画像制作を行った事です。隊員に札幌雪祭り気分を味わって貰おうと最初

の作品は「イーグル」でした。また、3年前の制作は大変想い出深いものになりました。それは、現職隊員と千鷲会員有志の合作によるもので「熊」をメインに各チーム毎にテーマを決めて作品を仕上げるものでした。成人隊員は、全員が初めての経験であり厳寒の中、黙々と制作に取り組む姿は大変に凛々しく感じました。更には、隊員と直接触れ合うことにより、若い隊員の現状を知る良い経験もさせて頂きました。参加された会員の皆様、大変にお疲れ様でした。最後に、新型コロナの1日も早い終息と会員皆様のご健康を祈念致します。